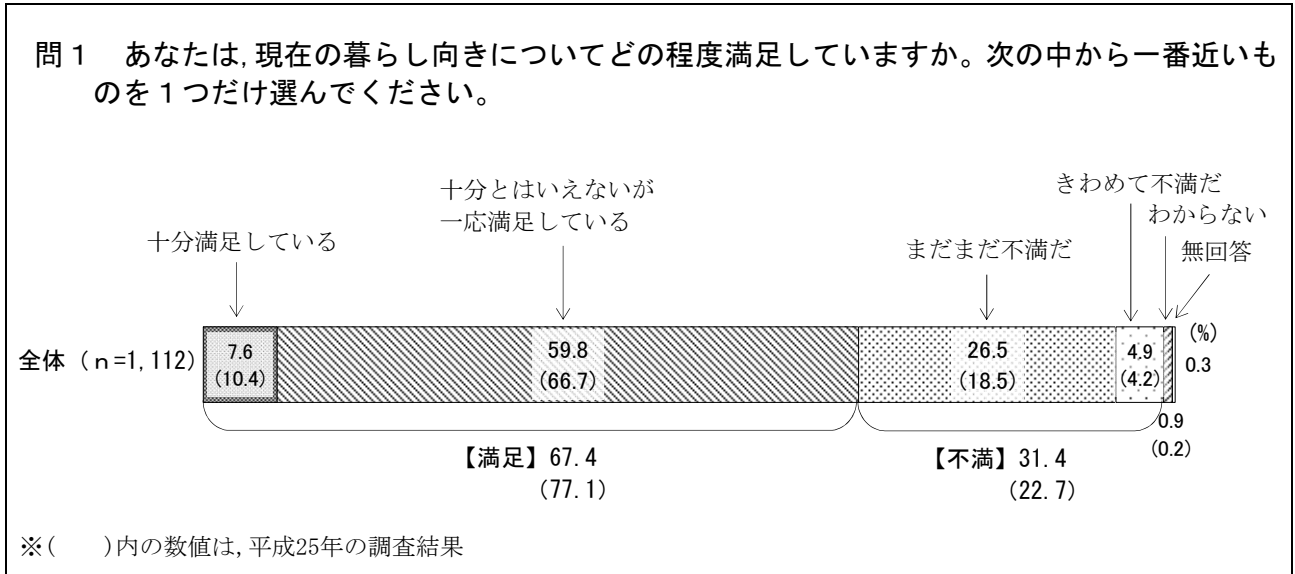


I 生活意識

1. 暮らし向きへの満足度

－【満足】が約7割－

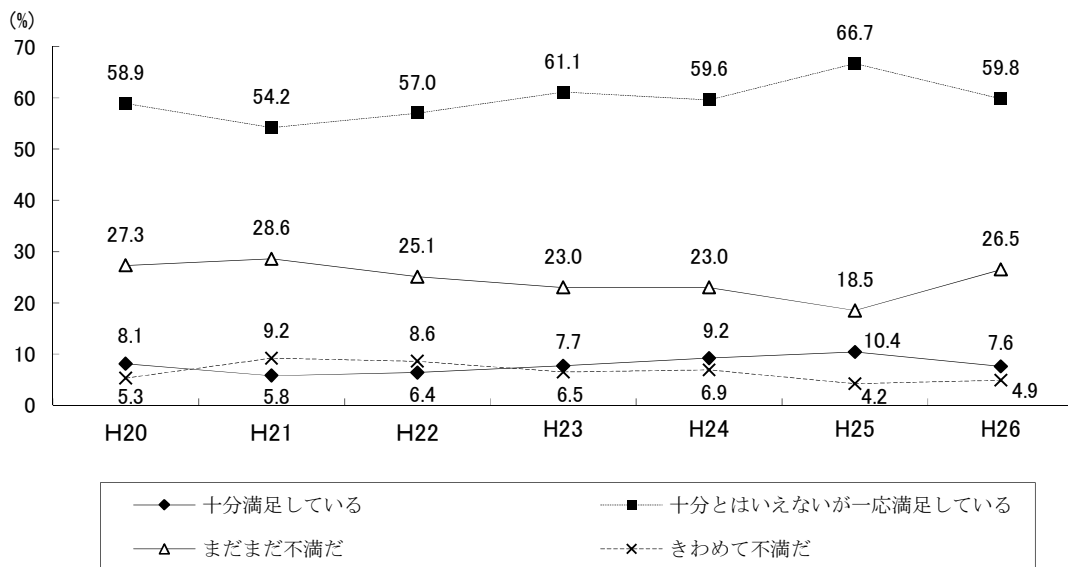


暮らし向きへの満足度としては、「十分満足している」(7.6%)と「十分とはいえないが一応満足している」(59.8%)を合わせた【満足】(67.4%)が約7割となっている。一方、「まだまだ不満だ」(26.5%)と「きわめて不満だ」(4.9%)を合わせた【不満】(31.4%)は3割を超えている。

－【満足】が約10ポイント減少－

前回調査(昨年)と比べると、【満足】が約10ポイント減少している。

図 I 1-1 暮らし向きへの満足度(時系列)



ー県北で【満足】が7割超ー

地域別でみると、【満足】は、県北（71.3%）で7割を超えて最も高くなっている。

ー女性で【満足】が男性よりも約4ポイント高いー

性別でみると、【満足】は、女性（69.5%）が男性（65.4%）よりも約4ポイント高くなっている。

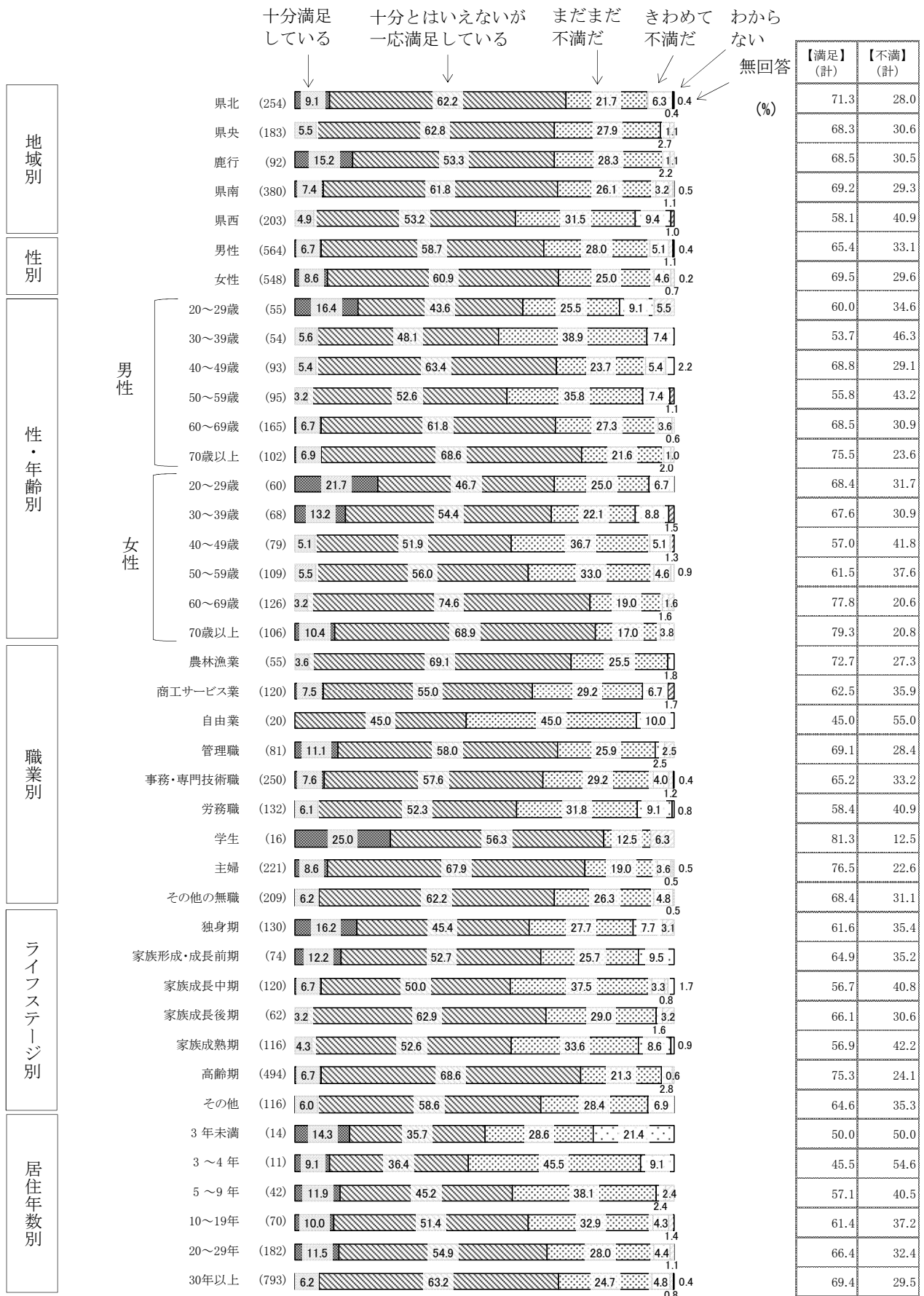
ー女性の60代と70歳以上で【満足】が約8割ー

性・年齢別でみると、【満足】は、女性の60代（77.8%）と70歳以上（79.3%）で約8割と高くなっている。

ー農林漁業と主婦で【満足】が7割台半ばー

職業別でみると、【満足】は、農林漁業（72.7%）と主婦（76.5%）で7割台半ばと高くなっている。

図 I 1-2 暮らし向きの満足度
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)

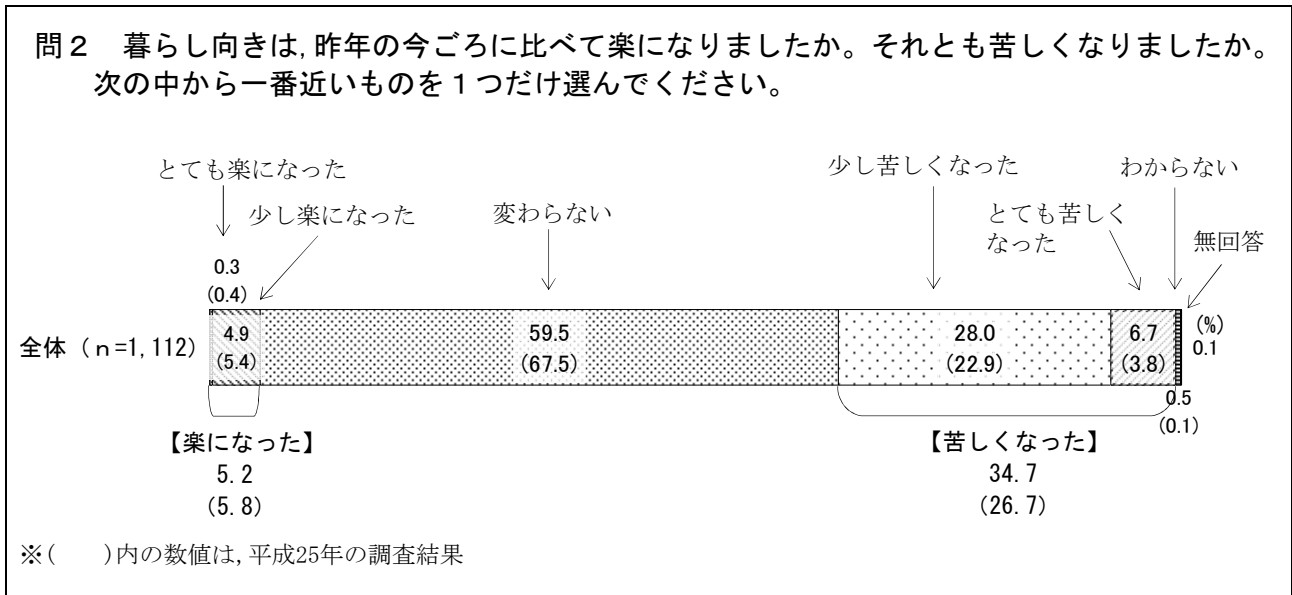


(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

2. 暮らし向きの変化

(1) 暮らし向きの変化

－「変わらない」が約6割－

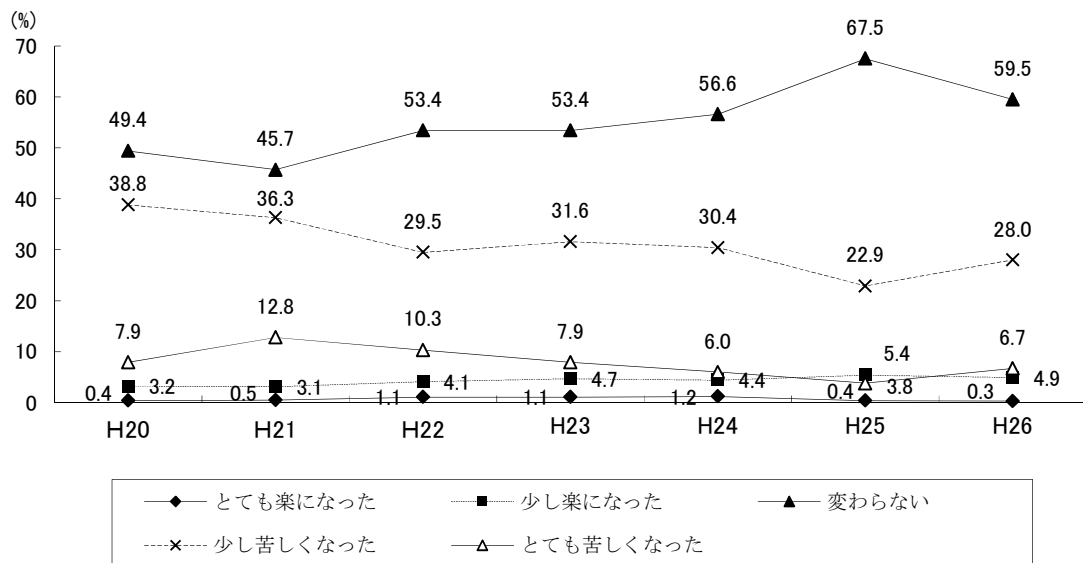


暮らし向きの変化としては、「変わらない」(59.5%)が約6割となっている。一方、「少し苦しくなった」(28.0%)と「とても苦しくなった」(6.7%)を合わせた【苦しくなった】(34.7%)は3割台半ばとなっている。

－【苦しくなった】が8ポイント増加－

前回調査(昨年)と比べると、【苦しくなった】が8ポイント増加している。内訳として、「少し苦しくなった」が約5ポイント増加している。

図I 2-1 暮らし向きの変化(時系列)



ー 県央と県西で【苦しくなった】が約4割ー

地域別でみると、【苦しくなった】は、県央（39.3%）と県西（39.4%）で約4割と高くなっている。

ー 女性で【苦しくなった】が男性よりも約8ポイント高いー

性別でみると、【苦しくなった】は、女性（38.5%）が男性（30.8%）よりも約8ポイント高くなっている。一方で、「変わらない」は、男性（63.1%）が女性（55.8%）よりも約7ポイント高くなっている。

ー 女性の30代から60代で【苦しくなった】が約4割ー

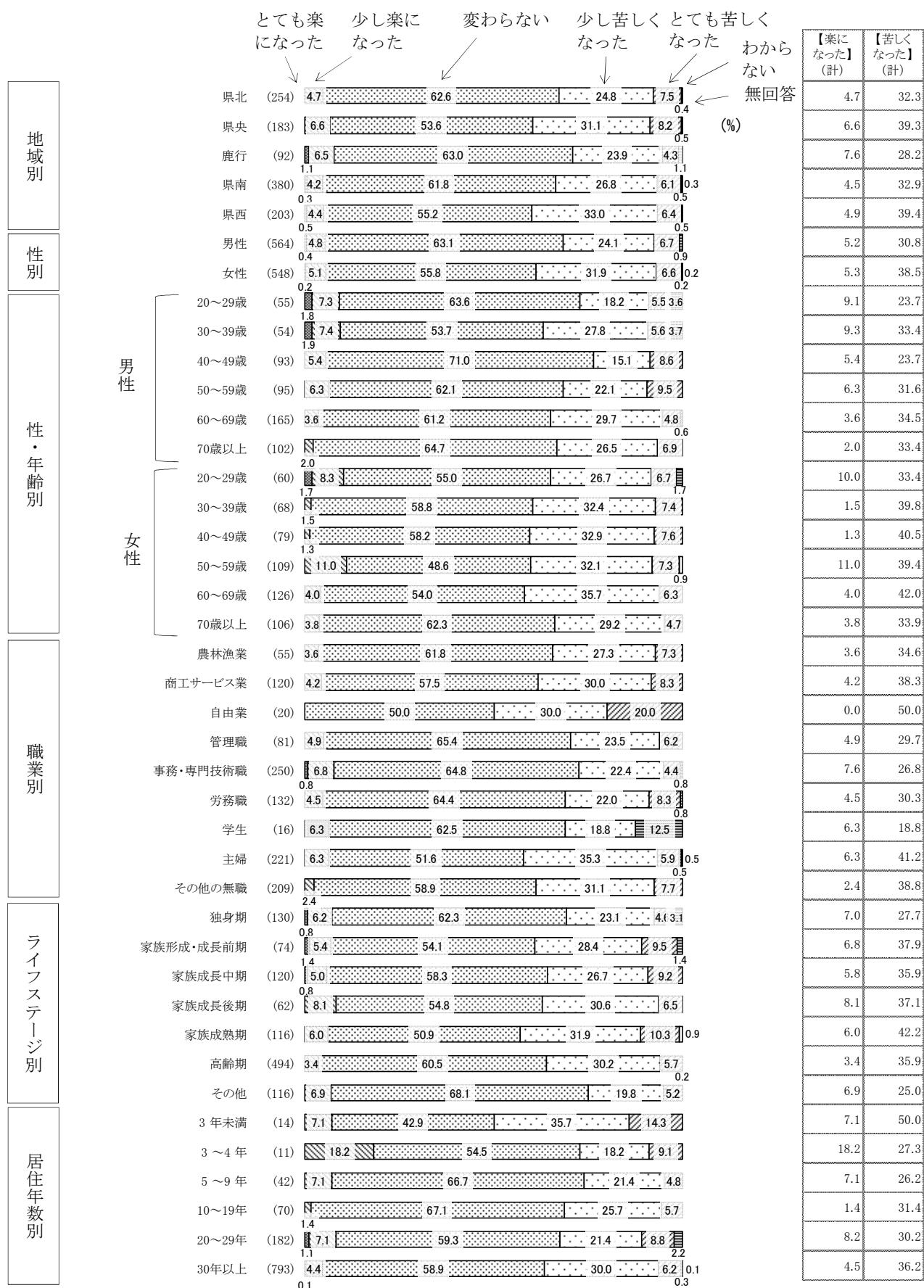
性・年齢別でみると、【苦しくなった】は、女性の30代（39.8%）、40代（40.5%）、50代（39.4%）、60代（42.0%）で約4割と高くなっている。

ー 主婦で【苦しくなった】が4割超ー

職業別でみると、【苦しくなった】は、主婦（41.2%）で4割を超えて高くなっている。

図 I 2-2 暮らし向きの変化

(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



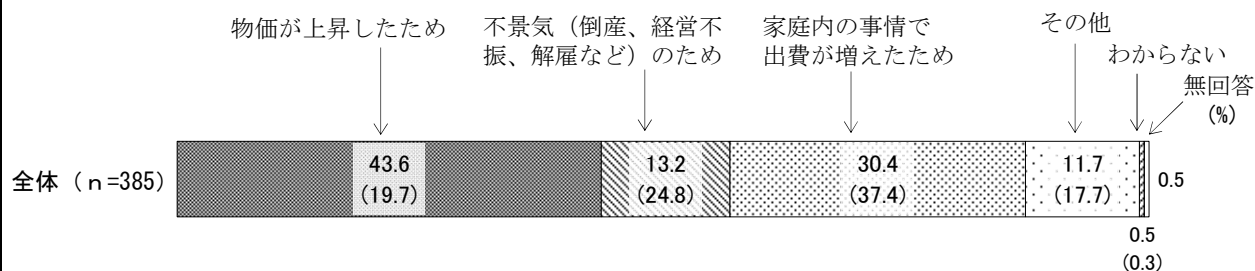
(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

(2) 苦しくなった理由

－「物価が上昇したため」が4割台半ば－

(問2で「4. 少し苦しくなった」, 「5. とても苦しくなった」と回答した方のみ)

問2－1 苦しくなったのは、主にどのようなことからですか。次の中から最も大きな原因を1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成25年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】と回答した方に、その理由を聞いたところ、「物価が上昇したため」(43.6%)が4割台半ばと最も高く、次いで、「家庭内の事情で出費が増えたため」(30.4%)が3割台で続いている。

－「物価が上昇したため」が約24ポイント増加－

前回調査(昨年)と比べると、「物価が上昇したため」が約24ポイント増加している。一方、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」が約12ポイント減少している。

－県西で「物価が上昇したため」が5割－

地域別でみると、「物価が上昇したため」は、県西(50.0%)で5割と最も高くなっている。

－男性で「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」が女性よりも約13ポイント高い－

性別でみると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」は、男性(20.1%)が女性(7.6%)よりも約13ポイント高くなっている。一方、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、女性(34.1%)が男性(25.9%)よりも約8ポイント高くなっている。

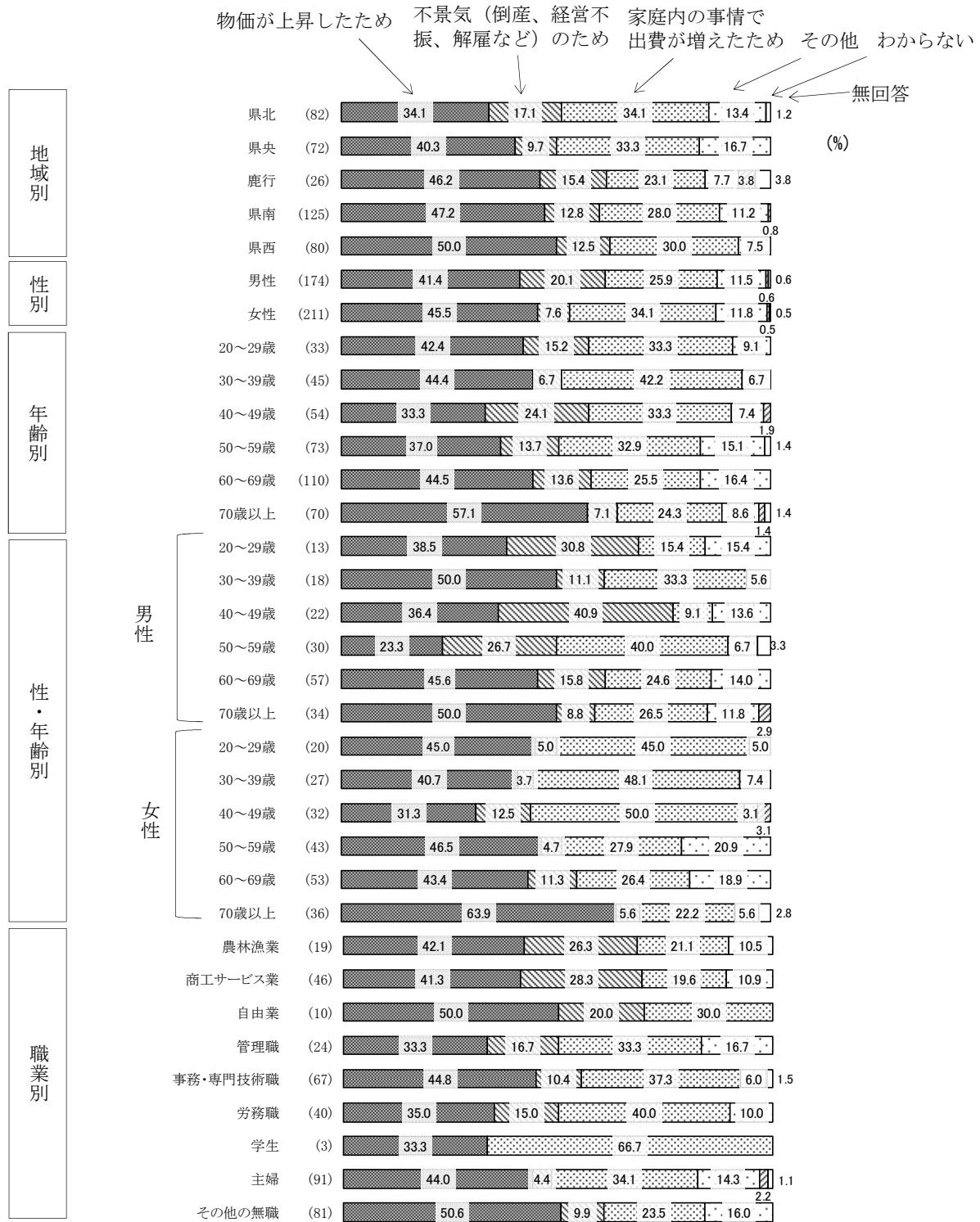
－70歳以上で「物価が上昇したため」が約6割－

年齢別でみると、「物価が上昇したため」は、70歳以上(57.1%)で約6割と最も高くなっている。

－その他の無職で「物価が上昇したため」が約5割－

職業別でみると、「物価が上昇したため」は、その他の無職(50.6%)で約5割と最も高くなっている。

図I 2-1-1 苦しくなった理由
(地域別、性別、年齢別、性・年齢別、職業別)



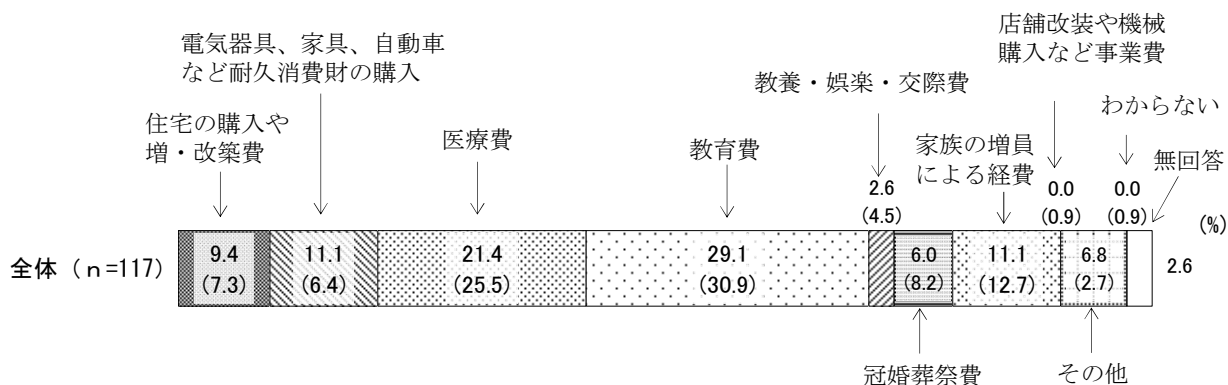
(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

(3) 増えた経費

－「教育費」が約3割－

(問2-1で「3. 家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方のみ)

問2-1-1 家庭内の事情で出費が増えたということですが、どのような経費が最も増えましたか。次の中から1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成25年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】理由を、「家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方に、増えた経費を聞いたところ、「教育費」(29.1%)が約3割と最も高く、次いで、「医療費」(21.4%)が2割超で続いている。

－「電気器具、家具、自動車などの耐久消費財の購入」が約5ポイント増加－

前回調査(昨年)と比べると、「電気器具、家具、自動車など耐久消費財の購入」が約5ポイント増加している。